

宗門において 離婚者一号である。

覚道については 常楽寺時代から 親下が狂って
また元凶である。こゝから存心合いで果てあり。
親下は 覚道 を信用している。

(宗門が末期的な混乱を示すにいたった原因について)

日蓮上人の親座は短かかった。その間 宗門は広く
存面を 整ってきた。むしろ人的場のような要いせつ
もいたが、この方向に向いてきた。

しかし 淳師は体が弱く、晩年 静養していて
私が給仕をしていた。

淳師は 臨終の前夜、血脈を今の親下に
相伝するに当り、常楽寺(高野師)に対し
~~今~~ 今後の宗門が 非常に心配である。

あなたか 大久保彦左衛門と存心、と 親下
を支えていきなさい、と言ったから。

今の親下は、しよ中、淳師にしかかかっていた
いろいろな事業に手を出したり、軽はずみな行動
が多かったからである。私は当時 淳師の奥番と
していたのでよく知っている。

相承をすまされて 11月16日午後4時、この世で